# 【ねがいましては】

平成１８年２月２６日
第１８４号　　*KYOWA　SCHOOL*

「人の気持ち」

下を見れば自分の胸から下が見える。顔は見えない。しかし目の前の人の全身は見える。鏡を使えば別ですが。自分の心はいつも自分と付き合っているわけなのでよく知っている。しかし目の前の人の心は見えにくい。鏡を使ってもダメ。

先日ちょっとしたことで『豆まき』の話が生徒との中で出ました。「鬼は内でいいんじゃないのかな。」というのが私の中に残った気持ちでした。鬼を大辞林で調べるとあるわあるわ何と１０個もの説明、そしてことわざや慣用句ときたら１７個です。何と恵まれたことか・・・。これはやはり外へ出て行ってしまっては、これからの子供たちの成長に悪影響が出そうです。

子供たちは常に『手本』を見つけながら生活しがちです。自分で適切な行動をとりにくいこともあってか、まねします。まねすることが自分を『安全圏』へと導きます。『仲間意識』というやつでしょうか。例としては、ちょっと残酷でもありますが、浦島太郎の物語です。亀を複数の子供たちがいじめています。この行動は子供たちの持っている当たり前な『安全圏』獲得行動であると思っています。現実、学校でもこの行動は日常茶飯事で起こっていると思っております。精神的いじめについては心の傷ですので、あとが残りません。その事実を他人に漏らすと自分が弱者であると認定されてしまうことになりますので、なかなか言えません。傷つけ側はストレス解消などでの行動ですので、後日同じようにストレスが現れると、その解消手段として同様な行動が現れます。人間心理は『欲』を主体にして動きがちですので、同様の繰り返しでは満足できなくなると、エスカレートが始まります。

まさにそれをしっかりと食い止めてくれるのが『鬼』。

私はあまり専門的なことはわかりませんが、お寺などへ参拝するとき、門に仁王様がいらっしゃいます。お二人とも怖い顔をしてこちらをにらみつけています。鬼さんも然り。子供心に何でここに鬼がいるのだろうと思っていました。で、この仁王様、お仕事はお寺の中にいらっしゃる仏様（ほとけさま）の警護役なのです。中に入り込もうとする仏様の敵を追い払うお役目なのだそうです。

もし、この仁王様が亀をいじめている子供たちの前に現れたら・・・、子供たちは亀いじめをやめたかもしれません。学校の中にも仁王様がいらっしゃったら・・・。

で、鬼に戻りましょう。『おにごっこ』小さいときよくやられたのではないでしょうか。今でも子供たちの遊びには『おに・・・』『・・・おに』などのような遊びがあります。鬼はまずひとりが多いようです。いきなり鬼を複数作ってはじめるものも少ないのでは・・・。『鬼　→　ひとりぼっち』という方程式ができるはずです。

一人ぼっちでいるものをひとりぼっちにしておいてよいのかな？子供たちに問いかければ答えは皆同じです。

助け合うこと、大切な人らしさを象徴する行動です。助け合うことのほとんど逆の意味で、『競争』というものがあるように思います。

この教室にいる子達みんなで鬼さんの身の上話を聞いてあげよう。鬼さんをひとりにしないでお友達になってあげようよ。もし今まで悪いことばかりしてきたのなら、良いことを教えてあげようよ。きっと鬼さんはそんな温かいみんなの心根に触れてやさしいやさしい鬼さんに変わるよね。鬼さんはそんな君たちに恩返しがしたくなるに違いない。

そしてある日、生徒の一人が悪いとわかっていることを知っていながら悪いことをした。鬼さんはその子の心の中に住み着いている悪いものを追い払おうとして、「こらーっ」と思い切り叱りました。それは悪いことをした子にではなく、その子の中に住みついている悪者にむかって怒鳴ったんですね。鬼さんは必死でした。こんなにやさしくしてくれた子達に悪者が住み着くことが許せませんでした。

私はよく『こころ』のことについては厳しいですと言います。きっとこのような潜在意識があったからなのかなと思いました。

私の理想がまたひとつ増えました。ここに通う子達みんながとなりの子の『仁王様』になってあげられたら・・・。となりの子に悪者が住みついたらしっかり追い出してあげようよ。これだって立派な思いやりです。

今、ご家庭の中でも『仁王様』的存在が希薄になってはいないでしょうか。学校でも『仁王様』敵存在の先生が希薄になってはいないでしょうか。

先日、私が熱を出しました。３８．５度の熱・・・。（インフルエンザではありませんでした）その話を聞くや否や「先生病院行ったの？」と険しい表情で問いかけてきた子がいました。うれしくてなりません。私のとなりにも『鬼』がいた。これが本物の愛情ではないでしょうか。ありがとうね。あなたのその叱咤がわたしのこころをぽかぽかにしてくれました。

ありがとう。